

市民・事業者・行政が協働して環境保全都市を実現するひらかた環境ネットワーク会議会報誌

NO. 57
春号
平成 30 年
(2018)

環境ひらかた



今年もエコフォーラムで多くのことを学び合いました

去る2月3日、恒例の「ひらかたエコフォーラム」をメセナひらかた会館にて開催しました。

今回は枚方市市政施行70周年記念ということで、減量業務室との共催で、午前・午後の2部制で実施しました。午前の部は例年と同じく環境表彰と温暖化対策の取り組み報告を、そして午後の部は、「災害廃棄物が語ること」をテーマにした基調講演と、講演を受けてのワークショップで、充実したエコフォーラムとなりました。

また、今回のエコフォーラムは、昨年同様“カーボンオフセット”に取り組みました。昨年はこの“カーボンオフセット”について56.4%の方が「聞いたことがない」と答えておられましたが、今年はその割合が42.4%に減り、「知っている」「よく知っている」の割合は11.3%から、31.4%に大きく数字を伸ばしました。



*****目次*****

| | |
|------------------|-------|
| エコフォーラム2018開催 | P 1 |
| エコフォーラム、環境ミニ講座報告 | P 2・3 |
| 各部会報告 | P 4・5 |
| お知らせコーナー | P 6 |
| 環境トピックス VOL. 23 | P 7 |
| ちょっとお得なエコライフ情報 | P 8 |

エコフォー



日常のくらしの中でいざという時どのように行動すべきかワークショップで意見を出し合いました



今年のエコフォーラムは久しぶりに午後 2 時まで開催しました。午後の部の講演は、事前告知の中味と若干異なることに戸惑いながらも、近年多発する自然災害が起きたとき、私たちは常日頃どのような備えをし、いざといった時、どのように行動すべきか等の話を聞きました。そのあとの意見交換では、日常のくらしのなかで、いらないものをため込まない生活をするのが、災害時に多量のごみが出ないことにもなるといった意見も出され、短い時間ながらも得ることの多い1時間半となりました。

災害時のごみの問題って、難しいですね

下水マンホールの利用という手もあるけれどそれも使えない時は…

災害時、トイレが使えなくなった時、汚物ゴミの問題は深刻ですよー

いらないもの、余計なものなどが、災害時にごみとなって出てきますねー…

災害が起きた時の備えてどんなことしてる？

自治会の防災ではいろいろとしているみたいだけど…



【報告】 2017 環境ミニ講座 盛況に終わりました！***



7月17日(月祝)13:30~15:30
「天の川探検隊! PART2」
 ◎天の川で生き物を探してみよう!
 ◎箱メダカ作り
 ◎さかさ舟レース 岸壁
 産物情報コーナーから天の川に移動します
 定員 > 20名 小学4年生以下は保護者同伴
 ち類 > 連れて来てもいい! 船など (川に入ります)



6月29日(木)13:30~15:00

「エアコン室外機カバーを作ろう!」

エアコン室外機の大さに切ったダンボールに食品トレイ、アルミシートを貼り、紐を付けたらできあがり!

<定員> 20名

<持ち物> 発泡スチロールトレイ(天板の大きさ分)

アルミシート(保冷パックや車用など)

家の室外機の寸法を記録したメモ



子どもより大人が熱中! 童心に帰って親子で楽しみました。

親子でエコクック! またつくろうね!

8月24日(木)13:30~15:00

夏休み特別企画 「エコクッキング 簡単ティラミス!」

親子で簡単エコクッキングを楽しもう!

<持ち物> エプロン、三角巾

<材料費> 100円

<定員> 25名

小学4年生以下は保護者同伴 大人のみも大歓迎

今日から名人! 片づけ力を極めました!

9月28日(木)13:30~15:00

「片付け力」を磨こう!

○ いる? いらない? 判断力を磨く

○ 空間活用力を磨く

○ 不要なもの 処分力を磨く

<定員> 25名

エコフォーラム 2018



エコドライブに挑戦！



お話に聴き入る！



インターン生としてエコフォーラムに参加。受付でアンケートの回収に奮闘しました。



昨年9月に「ごみ減量アイデアコンテスト」を実施しました。温暖化の原因の一つであるCO₂の削減を目的とした取り組みですが、皆さん覚えておられますか？今回のエコフォーラムではその受賞作品も展示し、ごみ減量を呼びかけると共に、アイデアを来場者の方にアピールしました。

インターン生、エコフォーラムにも参加しました！



関西外国語大学 金城亜斗夢
NPOという「知らない世界への不安と、新たな体験ができる事への期待」が入り混じった気持ちで臨んだインターンシップでした。インターンシップを通し様々な人と出会い、様々なことを学びました。今回学んだことの全てが今後の自分自身の糧になると思っています。



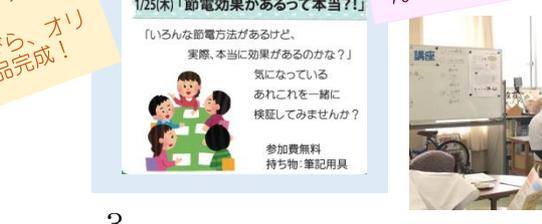
エコクラフ
11/30(木)「クリスマスオーナメント作り」
エコキャップや牛乳パックなど廃材を利用して、クリスマスツリーや正月などに飾るオーナメントを作ります。
参加無料
持ち物：はさみ・古布等

エコキッチン
2/22(木)「レンジで簡単フルーツ大福」
季節のフルーツを使い、少ないエネルギーでフルーツ大福を作ろう！
参加費：100円
持ち物：布巾・三角巾・エプロン

エコクラフ
1/25(木)「節電効果があるって本当?!」
「いろんな節電方法があるけど、実際に効果があるのかな？」
気になっているあれこれと一緒に検証してみませんか？
参加費無料
持ち物：筆記用具

エコクラフ
10/26(木)「袋でもみもみ簡単クッキー」
洗い物も少なく、3つの材料で簡単にできるクッキーを作ろう！
参加費：100円
持ち物：布巾・三角巾・エプロン

エコクラフ
季節のエコクラフ！
語らいつつ、オリジナル作品完成！





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

～自らが考え行動できる環境啓発を目指して～

「環境教育部会」の活動も昨年4月の発足以来、丁度1年が経過しました。

昨年7月の「くらわんか塾 ～出前授業担い手養成講座～」の開催により、わずかながらも部会員の増強を図ることができました。増強されたこともあって、今年度は市の環境関連イベントや、学校参観、校区行事にも要請に応え参加し、ソーラースクータ、自転車発電、手回し発電、ゴミ分別魚釣りゲームなどのツールを活用して、充実した環境啓発支援を実施することが出来ました。

また、主に小学校を対象に環境出前授業のPRや、環境出前授業のメニュー紹介のための学校訪問を行ったことは、会報誌冬号に書いた通りですが、その甲斐あって、延べ23校・約1400名の児童の受講がありました。受講した子どもたちからは、環境問題への関心や自らが行動に移すことの大切さを書いた感想文やお礼状が寄せられ、環境教育部会が目指す「自ら考え行動できる」環境啓発に近づいているのかなと感じています。環境教育に関心のある方は是非「環境教育部会」にご入会ください。



部会員一同お待ちしております！！

まちづくり部会

みんなで協力、きれいな街づくり

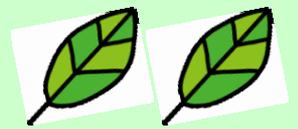
まちづくり部会活動のひとつ、環境保全のまち美化活動では、現在、一か月に2か所の清掃を行っています。この活動を行うにあたり枚方市の「アダプトプログラム」(※)という制度を利用しています。今回、10年以上このプログラムで美化活動を行っているグループにお話を伺いました。活動を始めたきっかけは「道路沿いのペットの糞の放置やゴミが目立っていたのが気になったことから」とのこと。美化活動を続けた現在、糞やゴミはかなり減ってきているそうです。また、何より嬉しいことは、近隣の老人会の皆さんも清掃活動を始めてくれたことで、長続きのコツは「無理をしないこと」だと教えていただきました。このような美化活動の中で住民が協力し合い、地域に対する愛着を育むことが、清潔で美しいまちづくりへと繋がっていくのです。皆さんもアダプトプログラムを利用して、お住まいの地域のまち美化に参加されてはどうでしょうか。



(※)「アダプトプログラム」とは、

道路や河川、公園などの管理責任者は国、都道府県、市町村であり、管理責任者毎にプログラムが導入されている。プログラムの下、市民グループや元企業などの団体が、継続的に清掃活動や植栽・花の管理、除草などの美化活動を実施し、行政がごみの処分や清掃用具の提供、活動区域内に団体名を記載した看板の設置などの活動の支援を行う制度です。





自然エネルギー部会

自然エネルギー部会15年の歩みを振り返る

自然エネルギーをめぐる社会情勢が変化しているなか、自然エネルギー部会はおかげさまで15年近く歩み続けることができています。しかし部会活動に目を向けると、毎年の自然エネルギー学校を開催することに追われているような気がします。とは言えこの15年を振り返ると、実に中身の濃い活動を展開してきたと思います。皆さんにもこの15年の活動を知って頂くと共に、部会のエネルギー（熱意）をかきたてるためにも“15年の歩み”として整理してみました。

自然エネルギー部会の歩み (1)

2004年 ひらかた環境ネットワーク会議が、行政と市民・事業者の三者で開設されごみ・エネルギー部会では、「地域分散型エネルギーとして大いに期待されている自然エネルギーを地域で根づかせるのは私たちです。」(第1回自然エネルギー学校のチラシより)の理念を掲げ活動開始。

2005年 ひらかた自然エネルギー学校 (Renewable Energy School in Hirakata) は、自然エネルギーのことをもっと知りたいという市民のニーズに応え、家庭や地域で自然エネルギー普及のための人材を育成する目的で8月に開校。(第1回自然エネルギー学校のチラシより)

2005年～2007年 自然エネルギー学校を、1コマ2時間、10コマ開講という形で実施。その活動から、枚方初の「ひらかた市民共同発電所」という大きなプロジェクトが誕生。

この続きは次号以降に記載します。お楽しみに！

S-EMS プロジェクトチーム

努力が数字に表れた！

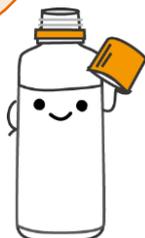
私達“S-EMS”（枚方市学校版環境マネジメントシステム）支援プロジェクトチームの活動は、「枚方市学習環境整備PFI事業」におけるS-EMS支援事業業務委託を受け、平成21年4月にスタートしました。委託事業ですので、当然要求水準を満たさなければなりません。そのため、行政や各種環境団体等が行う講演会や研修会に出かけ研鑽を積んできました。特に平成23年には大阪教育大学で「持続可能な開発のための教育（ESD）」の外部研修を延べ50時間受講しました。こうした努力の甲斐もあり、教育委員会と協議して行っている「環境推進員研修会」の内容も、必要な時期に必要なテーマで実施することができ、結果、研修会に参加される教職員の数が飛躍的に増えることとなりました。（平成24年度300名→25年度330名→26年度382名→27年度420名→28年度425名→29年度434名）併せて、教職員の方から積極的に相談が寄せられるようになりました。当該事業の委託残余期間は3年となりました。これまでの実績を踏まえ、さらなる充実した支援ができるよう、問題点や課題を見極め、真摯に支援活動に取り組んでいきたいと考えております。

お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



- エコキャップ H30年3月搬入分 137,600個
取組開始からの累計 2,859,922個
CO2 累計 1,910,484kg

※エコキャップは、「株式会社カンポ」を通じて、病気の子もたちとその家族のための滞在施設の建設や、福祉・医療分野におけるボランティアへの助成・育成活動などを行っている「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」に寄付しています。

【公共交通部会】「ひらかた交通タウンマップが新しくなりました！」

地図面に路線番号が入り、自分が乗るべきバスの番号が分かり易くなりました。一度手に取ってバスを使って下さい。バス路線や鉄道路線は使わないとどんどんサービスが低下し、最終的には路線が無くなるということが全国で起きています。京阪バスは枚方市内を走る公共交通を代表するバスですが、少子高齢化で就労就学人口が減っている今、枚方も例外ではないところもあるのです。

■4月7日(土)は、第26回バス!のってスタンプラリーです。13時～15時までは、岡東中央公園で「ひらかた交通すごろく」が体験できます。(詳しくはチラシ・Webサイトをご覧ください。)



◆◆◆総会のご案内◆◆◆

平成30年度通常総会を下記の日程で開催します。
詳細は後日ご案内を差し上げますが、予定の一つに入れていただき、当日はぜひご出席くださいますようお願いいたします。一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

記

日時：6月9日(土) 10:30～ (受付開始：10:00～)

場所：環境保全研修室 (サプリ村野南館2階 環境情報コーナー隣)

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回のテーマは、「マイクロプラスチックによる海洋汚染」「エネルギーの地産地消」です。

◆ マイクロプラスチックによる海洋汚染

私たちの周りにはプラスチック製品があふれている。これらのプラスチックの一部が海に流出し、マイクロプラスチックとなって深刻な海洋汚染を引き起こしていることをご存知だろうか。EUは今年1月、プラスチック製の包装材を2030年までにすべて再生利用可能なものとする環境汚染対策計画を発表したが、2016年1月に開催された世界経済フォーラム（ダボス会議）の報告を踏まえての決定と思われる。報告には①世界のプラスチックの生産量が1964年～2014年の50年間で20倍以上（1,500万t→3億1,100万t）となったこと ②その内、少なくとも毎年800万トン分のプラスチックが海に流出していること。更に他の資源に比べリサイクル率が非常に低いこと（紙：58%、鉄鋼：70-90%、プラスチック容器：14%）をあげ、早急に対策を強化していく必要があると書かれている。

わが国でも、プラスチックのリサイクルを促進し、海など自然界への流出を防ぐ手立てを強化していくとともに、プラスチックに対する施策の確立が急がれる。

◆ エネルギーの地産地消

古い話で恐縮だが、平成28年4月に経済産業省が「エネルギー革新戦略」における決定として、「地域のエネルギーを地域で有効活用する地産地消型エネルギーシステムは、省エネの推進や再エネの普及拡大、エネルギーシステムの強靱化に貢献する取組として重要であり、また、コンパクトシティや交通システムの構築等、まちづくりと一体的にその導入が進められることで地域の活性化にも貢献する」と公表した。

なぜ今こんなことを持ちだしてきたかという、今年3月12日付の朝日新聞の天声人語に、岐阜県郡上市石徹白地区の、小水力発電によるエネルギーの地産地消と地域活性化に関する記事が載っていたからである。石徹白地区に限らずこうした動きが全国に多くみられるようになってきているのを、みなさんをご存知だろうか。

エネルギーに対する地産地消の考えは、まだまだ大きな広がりにはなっていないが、私たち自身が、エネルギーの地産地消の意義や取組へ参画することのメリットを理解するとともに、社会全体として取組に対する必要性の喚起が必要ではないだろうか。農作物のようにエネルギーも地産地消の方向を目指す時代が来ていると思うのだが・・・。

ちょっと



お得な エコライフ情報!!



eco eco eco eco eco eco eco

「一般ごみの量は減らせるのに、なぜか増えていくプラごみ!」「プラごみって減らせる?一緒に考えてみませんか。」と、問題提起の投稿をいただきました。ごみを分別することで、各家庭から出されるゴミの傾向が見えてきます。まさに「ごみの見える化」です。一緒に考えてみてください。

購入時に考える

過剰な包装や、食品トレイ、パックなどプラスチックのものは極力避けるように。また、再生品や繰り返し使えるものを選ぶことでプラごみを減らせる?



ペットボトルが多すぎる

手軽に買える便利さが優先して、家族の飲んだペットボトルが、プラゴミを増やす原因に。お茶は沸かして飲む、持参する!一人ひとりの心がけて大事です!家族は小さな社会、家族の意識改革からはじめないと・・・!



カップめん容器、洗ってプラゴミに?

カップめんの容器を洗剤で洗ってプラゴミに?!水環境を考えると、これってエコなん?といつも迷ってしまいます。

「汚れているプラは、一般ごみでいいやん!」と、言い切りたいのですが・・・



プラゴミ

現在プラごみとして回収の対象となっているのはプラスチック製の容器・包材のみですが、これってどうなんでしょう?ひょっとして「容器・リサイクル法」って欠陥法?



ひとこと



先日、私の自宅で祖父が適当にごみを捨てているのを見て、孫である子供がごみの分別の仕方を注意していました。祖父が暮らす地域ではごみを分別する習慣がない為、分別を「めんどくさい」と言っていました。子供は「どこが?」と不思議そうに話していました。大人になってから何か行動を起こすことは難しいことかもしれませんが、小さい頃からやっているとは当たり前になり、無理なく行動することができます。子育て世代である私にとって、今しかできないもっとも効果的な省エネ行動は

「子供と小さい頃から一緒に省エネ行動をする」ことだな〜と改めて実感しました。 K

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第57号

平成30年4月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリ村野内(旧村野小学校)

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:伊丹 均 編集責任者:丸井 晶子